

浅井歴史民俗資料館

長浜市東部にあるこの民俗博物館は、庭園と鯉の池を中心とした建物群で構成されています。各建物は、ジオラマ、模型、体験コーナーがあり、江戸時代(1603-1867)の暮らしぶりを紹介しています。

2棟の伝統的な民家が、博物館の牧歌的な雰囲気醸し出しています。2つの農家のうち古いものはもともと1804年に建設され、1993年に博物館に移築されました。年代物の家具や畳の部屋、土敷の玄関やキッチンなど、手入れの行き届いた内装です。資格を有する地域の通訳を通じて事前に予約した訪問者は、着物の着用や年代物の脱穀機の使用など、さまざまな伝統的な農業体験を試すことができます。

敷地内にある2番目の伝統的なスタイルの農家は、1993年に建てられ、家庭で行われていた絹作りの作業を紹介しています。長浜の浅井地区は上質な絹で知られ、蚕の飼育から繭を繊細な糸に紡ぐまでの養蚕の過程を展示品で解説しています。隣の実物大模型の鍛冶場は、長浜の鍛冶屋がシャベルやくわなど、日常使用する道具をどのように製造したかを示しています。

農家の隣にある大きくて近代的な博物館の建物には、16世紀にこの地域を統治した浅井家の歴史に関する展示があります。イラスト入りのパネル、身の回り品、等身大のジオラマは、家族の興亡を示しています。1573年の小谷城落城を生き延びた、最後の浅井領主の3人の娘に特別な注意が払われています。